

鑑別診断

乾燥した病変は尋常性乾癬に、湿潤した病変はカンジダ症に類似する。そのほかに Gibert ばら色^{ジベル}秕糠疹、局面状類乾癬などと、乳児ではアトピー性皮膚炎などとの鑑別が重要となる。

治療

まずは石鹸やシャンプーを用いた適切な洗顔、洗髪の励行により脂漏部位を清潔に保ち、生活リズムを整え、弱めのステロイド外用薬を使用する。思春期以後の鱗屑を伴うタイプでは *Malassezia* 属の増殖が悪化因子である場合が多く、抗真菌薬の外用、あるいは抗真菌薬を含んだシャンプーが効果的である。

3. 貨幣状湿疹 nummular eczema ★

Essence

- 類円形、貨幣状の比較的大きな湿疹局面。
- 散布性に多発。自家感作性皮膚炎（後述）に移行する可能性あり。
- 治療は強めのステロイドを外用。

症状・疫学

冬季に多い。四肢（とくに下腿伸側）、体幹、腰殿部などに、貨幣状・類円形で直径 1～5 cm 程度の湿疹性病変が散在ないし多発する（図 7.12）。皮疹の辺縁には漿液性丘疹が集簇し、中央は軽度の浸潤を伴う紅斑であり、表面に鱗屑を付けることが多い。強い掻痒があり滲出液を伴うことが多い。周囲には多くの掻破痕を伴う。病変が悪化し、散布疹（^{イド}id 疹）を生じ自家感作性皮膚炎に移行することも少なくない。

病因

虫刺症から急性^{ようしん}痒疹や慢性痒疹（8章参照）となったものが、再び掻破されて貨幣状湿疹に移行する例や、接触皮膚炎から移行する例、また高齢者では皮脂欠乏性湿疹に続発する例が多い。アトピー性皮膚炎の一症状として出現することもある。

治療

病変部に対してはステロイド外用（ODT を含む）が有効であるが、浸潤や湿潤が強い場合にはステロイド外用に加え、亜鉛華軟膏シートの重層外用が有効である。掻痒に対しては抗ヒスタミン薬の内服を行う。

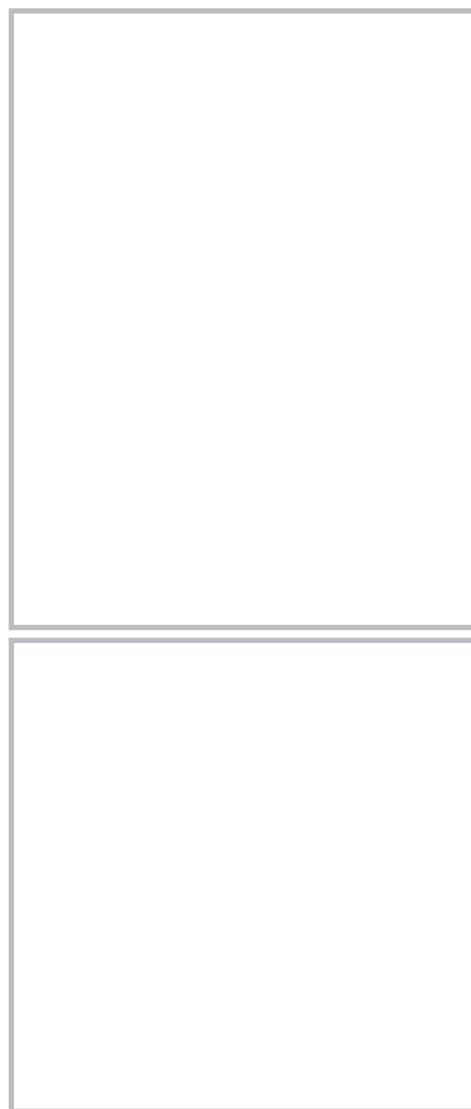


図 7.12 貨幣状湿疹 (nummular eczema)
1～5 cm 大までの類円型の貨幣状を呈した湿疹の多発。